

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
106 - 220	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
231 いいずな	論 I 231-903	be English Logic and Expression I Smart New Edition		

1. 編修の基本方針

本書は、英語教育を通して、確かな学力、多文化共生時代を生きるために求められる資質・能力と、豊かな人間性を育成することを教育理念とし、それを具現化するため、次の3点を編修の基本方針としました。

①「知識・技能」の観点（第1号）

- ・英語で表現するための語彙力、文法力、慣用表現力を育てる。
- ・英語の言語資源を使って、さまざまなタスクを行う力を育てる。
- ・英語でのインプット（リスニングとリーディング）によって得られた知識を、アウトプット（スピーキングとライティング）につなげる。

→語彙力、文法力、慣用表現力を育てるためのコーナーをレッスン内に配置しました。

Forms 英語で表現するための形（文法）を理解する。

F-GUIDE 個々の文法の意味や働きを把握する。

Expressions コミュニケーションに有用な慣用表現を理解する。

E-GUIDE **Expressions**で学んだ慣用表現のさらなる例に親しみ、表現の幅を広げる。

Vocabulary テーマに関する語彙を増やす。

CHECK 言語活動の準備として文法項目の知識を確認する。

②「思考力・判断力・表現力」の観点（第4号、第5号）

- ・物事を論理的に思考する力を育てる。
- ・現象を分析し、傾向性や因果関係などを判断する力を育てる。
- ・英語での会話、事物の描写、論理展開などを学習して、自己表現力・対話力を育てる。

→現象を分析し因果関係などを判断する力や、論理的に思考する力を育てるためのコーナーを用意しました。

論理的に考えてみよう！

(pp.60～61) 論理的に考えたり伝えたりすることの意味や重要性、それと表現との関連などを解説。

Logical Writing PLUS

(pp.148～149) 論理的につながりのある文章を書くための表現の学習。

Logical Thinking

(各課4ページ目) 各課のテーマに関して書いたり話したりする際の、論理的観点からのアドバイス。

→各レッスンでは課ごとのテーマで自分のことを表現するためのさまざまなTASKを設けました。話す（やり取り・発表）活動、書く活動をバランスよく、また有機的に組み合わせました。

TASK 話す（やり取り） 話す（発表） 書く 協同学習（クラスメイトと協同して英語力をつける場）

→各ゾーンのテーマにそったトピックで、叙述文、意見文、説明文、問題解決文、説得文といった、さまざまな論理展開で書く活動を行います。発展としてスピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・ディベートの活動も行います。

Logical Writing①～⑤

スピーチをしてみよう！ (pp.36～37)

プレゼンをしてみよう！ (pp.94～95)

ディスカッションをしてみよう！ (pp.124～125)

ディベートをしてみよう！ (pp.144～147)

→英語での会話を向上させる補助のコーナーを用意しました。

Tips for Better Communication

(各課1ページ目) 英語でコミュニケーションするうえでのアドバイスを提供。

③「主体的かつ対話的に学習に取り組む態度」の観点(第2号、第3号)

- ・「なすべきこと」について行動計画を立て、それを実行する力を育てる。
- ・他者との協同を通して新たな可能性を創り出す共創力を育てる。

→学習到達目標を提示することにより、主体的に学習に取り組む態度を育みます。

レッスンごとの学習到達目標を Self-Check, Zone ごとの学習到達目標を後見返しに Study Flow として提示し、英語で表現する意欲と主体性をもたせます。学習の振り返りと自己評価も行えます。

→主体的・対話的に学習に取り組む活動を、各課のゴールに置きました。

Active Learning

(各課4ページ目) 各課のゴールとなる4ページ目を **Active Learning** と題し、与えられたテーマについて主体的に考えたり調べたりしたうえで、自己発信を行う場としました。



SHARE



SHARE

Active Learning では、**SHARE** というグループで情報交換を行うステップを毎回踏むことで、協同を通して新たな可能性を創り出す共創力が育めるように設計しました。



WRITE

自ら主体的に考えたり調べたりしたことを、英文にまとめて書く力を養います。

2. 対照表

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当箇所
各 レ ッ ス ン 1 頁 目 ～ 4 頁 目	LESSON 1～23	高校生にとって身近な「予定」「学習・課外活動」「食べ物」「健康」などのほか、「自然」「発明・進歩」「行事・慣習」など、幅広い多様なテーマや場面を取り上げました。 (第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。)	各レッスンの： 1ページ目 Start-Up 4ページ目 Active Learning
	LESSON 10, 17, 21	勤労に係る「将来」「社会活動」「願い事」などをテーマに取り上げました。 (第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自立の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。)	65～68, 103～106, 129～132 ページ
	LESSON 9, 19, 20	社会に積極的に参画する心を育むため、「交通や建物」「生活環境」「社会問題」などをテーマに取り上げました。 (第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。)	53～56, 111～114, 115～118 ページ
	LESSON 14, 20	自然の尊さとかげがえのない環境について考えさせるため、「自然」や「環境」などをテーマに取り上げて、思考したり表現したりする活動を設けました。 (第4号 生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うこと。)	83～86, 115～118 ページ

	LESSON 6, 12, 16, 18, 19, 20, 22, 23	言語や異文化に対する理解や関心が深まるように、「食べ物」「生活環境」「行事・慣習」「異文化理解」「ことばとコミュニケーション」などのテーマを取り上げ、また、「便利な製品」「発明・進歩」「社会問題」などのテーマを通して世界全体の発展について思考したり表現したりする活動を設けました。 (第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。)	41~44, 73~76, 99~102, 107~110, 111~114, 115~118, 133~136, 137~140ページ
1 頁目	Forms	当該レッスンで扱う学習項目の解説をし、その記述を生徒にとって分かりやすいものにすることで、主体的に予習と復習をする学習習慣を身に付けることができるように工夫しました。(第2号)	各レッスンの1ページ目
2 ~ 3 頁目	・ CHECK ・ TASK	各3領域の技能を用いて表現をする活動を有機的に組み合わせて、言語の統合的な理解を促す構成としました。(第1号)	各レッスンの2~3ページ目
4 頁目	・ SHARE ・ WRITE	SHARE と WRITE では、協同学習を通して社会形成に参画する喜びを与えるように工夫しました。(第3号)	各レッスンの4ページ目
1 頁 コラム	・ Communication TIPS ①~④ ・ Zone REVIEW (全5回) ・ EXTENSION①~③	言語について、幅広い知識と教養を身に付ける扶助となるコラムを設けました。(第1号)	・ 39, 63, 97, 127ページ ・ 33, 57, 91, 121, 141ページ ・ 81, 119~120ページ
	・ EXTENSION②③	日本と世界の社会問題を取り上げ、問題について主体的に考え、自分の意見を表現する活動につなげました。(第3号)	・ 119~120ページ
実践的な活動の場	・ スピーチをしてみよう！ ・ 論理的に考えてみよう！ ・ プレゼンをしてみよう！ ・ ディスカッションをしてみよう！ ・ ディベートをしてみよう！ ・ Logical Writing①~⑤, PLUS	・ 相手の気持ちを配慮しつつ、意図を円滑に伝達するための知識を提供しました。(第1号) ・ 社会人になって勤労に従事する際に有用な、伝達手法（ライティング・スピーチ・プレゼンテーション・ディスカッション・ディベートなど）の知識を提供しました。(第2号) ・ 92, 94ページでは、「絶滅危惧種の動物」のテーマを取り上げ、そのことについて思考したり表現したりする活動を含めました。(第4号)	36~37ページ（スピーチ） 60~61ページ（論理） 94~95ページ（プレゼン） 124~125ページ（ディスカッション） 144~147ページ（ディベート） 34~35ページ（LW①叙述文） 58~59ページ（LW②意見文） 92~93ページ（LW③説明文） 122~123ページ（LW④問題解決文） 142~143ページ（LW⑤説得文） 148~149ページ（LW PLUS 論理的な文章の書き方）
後見返し	Study Flow	生徒自身が目標を意識し、学習意欲を向上させることができるように、学習到達目標を一覧形式で表示しました。(第2号)	後見返し

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

① 学習上の配慮

- ・ 題材や登場する人物などについては、性別による偏りがないように配慮しました。また、人種や身体的特徴などについても、多様性に留意しました。
- ・ 豊かな人間性、創造性の獲得に資するため、紙面全体を通じて美しく読みやすい書体や、ユニバーサルデザインに配慮した紙面、親しみやすいイラストを用いるように心がけました。
- ・ 各レッスンの Start-Up の会話や Sounds（発音の学習）、Interactions の基本例文や Vocabulary、E-GUIDE、そして「発音記号と発音のしかた」は、音声を二次元コードで提供し、学習者が自由に再生して学べるようにしました。

② 題材の選定

- ・ 題材の内容は、学校生活、日常生活、食べ物、健康、自然、発明・進歩、行事・慣習、社会問題、ことばとコミュニケーションなど、さまざまな分野から選びました。
- ・ 性別や人種、特定の世界観や宗教に偏らないように努め、広いものの見方ができるように配慮しました。

③ 中学校との円滑な接続

- ・ 中学校との接続を円滑にするために、中学までの復習と高校への橋渡しをねらいとする Introduction というページを設けました。
- ・ F-GUIDE（Forms のポイントの説明）では、どのような場合に用いるかといった説明に重きをおき、TASK 等で活用できるようにしました。

④ 環境への配慮

- ・ 管理された森林資源を使用するなど、再生可能で環境にやさしい原料や製法で作られた用紙を使用しています。
- ・ 植物由来の油、およびそれらを主体とした廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ植物油インキを使用しています。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種 目	学年
106 - 220	高等学校	外国語	論理・表現 I	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
231 いいずな	論 I 231-903	be English Logic and Expression I Smart New Edition		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 高等学校外国語科の目標を実現するための工夫

- 1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深め、これらを実際のコミュニケーションにおいて目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けさせるため、各レッスン中に **Sounds** (発音)、**Vocabulary** (語彙)、**Expressions・E-GUIDE** (表現、言語の働き)、**Forms・F-GUIDE** (文法) と要素ごとに解説と例を提示し、タスクの目的、場面、状況に応じて活用できるよう設計しました。
- 2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて外国語で情報や考えの要点や、話し手や書き手の意図などを的確に理解して、適切に表現したり伝え合ったりする力を養うため、各レッスン中に **Tips for Better Communication** や **Logical Thinking** などの解説を用意しました。
- 3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うため、**Communication TIPS** という異文化コミュニケーションを行う際の留意点を解説するコラムページを用意しました。

(2) 論理・表現 I の目標を実現するための工夫

英語学習の特質をふまえ、**話すこと [やり取り]**、**話すこと [発表]**、**書くこと** の3つの領域別に設定された目標の実現のため、レッスンごとにテーマを設け、そのテーマで自分のことを表現するさまざまなタスクを配置し、英語の表現力を育成できるよう設計しました。

学習目標をレッスンごととゾーンごとに明示し、適切な分量のタスクを学びやすい順序で置くことで、英語で表現する意欲と主体性を常に学習者に持たせられるよう留意しました。

各レッスンは、「①導入→②定着→③発展」の3ステップ(4頁)の構成です。レッスンのゴールとなる「③発展」のステップでは、3領域を総合的に用いて、情報を理解したり自分自身の考えを発信したりする力を養うことに主眼をおきました。

各レッスンのテーマには、「休日にしたこと」「予定」といった身近なものから、「生活環境」「社会問題」といった高校生の興味関心に訴える深いものまで幅広い話題を選び、積極的にコミュニケーションを図る態度を育成できるよう配慮しました。

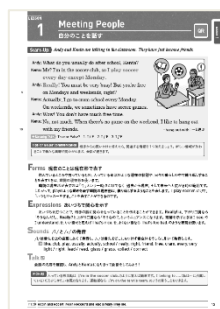
レッスン以外のページとしては、以下などを用意しました。

- ・ **Introduction** (pp.6～11) : 中学の学習内容の復習と高校への橋渡しを目的としたページ。
- ・ **Logical Writing** : ゾーンごとに、テーマにそったトピックでさまざまな論理展開で書く活動を行うページ。
- ・ **自己発信活動のページ** (スピーチをしてみよう! / 論理的に考えてみよう! ほか) : ゾーンごとに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を伸ばす活動を行うページ。
- ・ **その他のコラムページ** : **KEEP TALKING** (場面別会話) や、**Communication TIPS** (異文化コミュニケーションを行う際の留意点) といったコミュニケーションの補助となるページ。

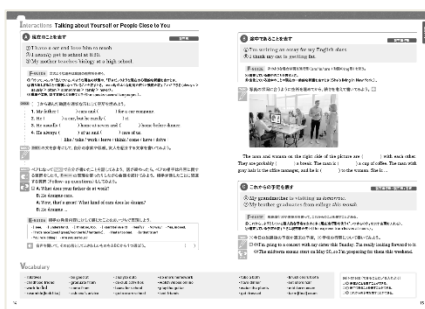
(3) 各レッスンの構成

各レッスンの「①導入→②定着→③発展」の3ステップ(4頁)構成の詳細は、以下の通りです。ステップごとに学習上の目的を明示し、教師にも学習者にも学習の過程が一目で分かるようレイアウトを工夫しました。

①導入



②定着



③発展



① **導入（授業への導入）** さまざまな場面の会話（Start-Up）を題材にして、英語の形や語順、表現、発音・アクセントを意識しながら話す練習をします。

Start-Up レッスンごとに設定したテーマで、高校生が自分の考えや経験を述べた会話の例を掲載しています。レッスンで学習する文法と、テーマに関して自分の考えや経験を述べる際に役立つ機能表現を用いています。

Forms 英語で発信するために必要な英語の基本形（文法）を理解します。

Expressions コミュニケーションに必要な機能表現を理解します。

Sounds 日本語の音との違いに気をつけながら、発音の練習を行います。

Talk Start-Up の会話文の音読。ひとりで繰り返したり、ペアになって練習をしたりします。

② **定着（Interactions）** レッソンのテーマで、学習する文法項目を使ってやり取りを行います。さまざまな TASK（英語で話す・書く・聞く・ペアワーク・協同学習）を通して知識と技能を身に付けます。

③ **発展（Active Learning）** レッソンのテーマにそって、与えられたトピックに関する発信活動を行います。「話す」活動や「書く」活動を積極的に行うことで、論理的に考え、判断し、表現する力をつけます。

SHARE 自分の意見や経験を、グループやクラスメイトに話して情報交換します。

WRITE 自分自身の意見や経験を、1パラグラフの英文で書きます。

●各ゾーンの活動 Logical Writing→自己発信活動

- **Logical Writing** : 各ゾーンのテーマに合わせたトピックについての書く活動を通して、英語の表現力を高めるのに必要なさまざまな表現手法を学習します。
- **自己発信活動** : 「スピーチをしてみよう!」「プレゼンをしてみよう!」などで、Logical Writingで書いたことをもとにさまざまな種類の発信活動を行います。

●学習到達目標の提示

上記に加えて、レッスンごとの学習到達目標を Self-Check、ゾーンごとの学習到達目標を Study Flow として提示することで、学習者に英語で表現する意欲と主体性を持たせることに意を用いています。

- **Self-Check**: 各レッスンの 3, 4 ページ目に掲載。学習到達目標をチェック欄とともに提示。
- **Study Flow**: 後見返しに掲載。1st ~ 5th Zone の 5 段階の学習到達目標をチェック欄とともに提示。

●レッスン以外のページ

- **前見返し**: 英語による授業に活用できるよう「コミュニケーションのための英語表現」を整理して掲載しています。
- **1 ページコラム**:

Communication TIPS: 「言外の意味」「ノンバーバル・コミュニケーション」「相手に応じたことばづかい」「話の展開のしかた」など、英語の背景にある文化に対する理解を踏まえて、聞き手や読み手に配慮してきちんとした意思疎通ができるような情報とアドバイスを提供しています。

KEEP TALKING: 「移動する」「食事をする」「買い物をする」「病院に行く」など、外国で遭遇しうる場面の典型的な会話表現を紹介しています。テーマが関連するレッスンの直後のページに置きましたので、レッスンの延長として使っていただけます。

EXTENSION: レッスンで学習する内容の発展的情報を提供するページです。内容は「趣味や興味を将来の夢につなげよう!」「日本の社会問題」「世界の社会問題」です。

Zone REVIEW: 各ゾーンで学習した文法事項をわかりやすく整理して、その要点を解説した復習用のページです。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容							該当箇所	配当時間
教材名	言語材料	(1) 英語の特徴や きまりに関する 事項	(2) 情報を整理しな がら考えなどを形成 し、英語で表現し たり、伝え合っ たりすることに關 する事項	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項						
				①言語活動			②言語の働き			
				ア 話すこと [やり取り]	イ 話すこと [発表]	ウ 書くこと	ア 使用場面	イ 働き		
LESSON 1 Meeting People	・ 現在形 ・ 現在進行形	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 家庭	(ア) 相づちを 打つ	pp.13-16	2
LESSON 2 Holidays and Weekends	・ 過去形 ・ 過去進行形 ・ used to	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 家庭, 地域 での活動	(ア) 聞き直す	pp.17-20	2
LESSON 3 Making Plans	・ will ・ be going to ・ will be + ing 形	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 家庭, 外出 したい場所	(オ)質問する (具体的な情報 をたずねる)	pp.21-24	2
LESSON 4 Experiences	・ 現在完了形 ・ 現在完了進行形	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 職場 (ウ) 旅行	(オ) 注意をひ く(話を切り 出す)	pp.25-28	2
LESSON 5 Study and Activities	・ 過去完了形 ・ 過去完了進行形 ・ will have + 過去分詞	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校で の活動	(ア) 同意を求 める	pp.29-32	2
Logical Writing ④ 叙述文を書いてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ			(イ)		(ウ) 説明す る, 報告する	pp.34-35	0.5
スピーチをしてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ		(イ)			(ウ) 説明す る, 報告する	pp.36-37	1
KEEP TALKING Scene ④ 移動する							(ウ) 旅行	(オ) 質問する	p.38	0.5
LESSON 6 Food	・ 助動詞 (can/be able to・ may/can't・ may/can't have + 過去分詞)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ウ) 料理, 食事	(イ) 気持ち (好き嫌い) を表す	pp.41-44	2
LESSON 7 School Life	・ 助 動 詞 (must/have to/should・ must/should have + 過去分詞)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア),(イ)	(ア) 学校	(オ) 質問する (理由をたず ねる)	pp.45-48	2
LESSON 8 Daily Life	・ 助動詞 (will/can/ shall・ will/would)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 家庭, 地域 (ウ) Eメー ル	(オ) 依頼をする (エ) 依頼を受け 入れる・断る	pp.49-52	2
LESSON 9 Transportation and Buildings	・ 受動態 (基本形・疑問 文・ 進行形/完了形)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア),(イ)	(ア) 地域 (ウ) 空港, 鉄道, 交通 施設	(オ) 注意をひ く(話しかけ る)	pp.53-56	2
Logical Writing ② 意見文を書いてみよう！		(ア),(イ)	ア, イ			(イ)		(ウ) 理由を述 べる (エ) 主張する	pp.58-59	0.5
論理的に考えてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ	(イ)		(イ)		(ウ) 理由を述 べる, 説明する	pp.60-61	0.5
KEEP TALKING Scene ② 食事をする							(ウ) 食事	(オ) 質問する	p.62	0.5
LESSON 10 The Future	・ 不定詞の名詞用法 (主 語・ 補語・ 目的語) ・ 疑問詞 + 不定詞	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 職場 (ウ) Eメー ル	(オ) 励ます	pp.65-68	2
LESSON 11 Staying Healthy	・ 不定詞の形容詞用法 ・ 不定詞の副詞用法 ・ 形容詞 + 不定詞	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校	(オ) 質問する (相手の発言 内容を確認す る)	pp.69-72	2

LESSON 12 Convenient Products	・SVO＋不定詞 ・使役動詞＋名詞＋動詞の原形 ・不定詞の進行形/受動態	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校 (イ) 広告 (ウ) 買物	(オ) 誘う	pp.73-76	2
LESSON 13 Hobbies and Interests	・動名詞（主語・補語・目的語） ・動名詞の意味上の主語と否定語、受動態/完了形	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 家庭, 活動, 地域	(イ) どうする, 興味を示す	pp.77-80	2
KEEP TALKING Scene ③ 買い物をする							(ウ) 買い物	(ウ) 説明する (オ) 質問する	p.82	0.5
LESSON 14 The World of Nature	・分詞（分詞形容詞・限定用法・叙述用法/付帯状況）	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 地域 (ウ) 旅行	(イ) 感情を表す	pp.83-86	2
LESSON 15 Trouble and Accidents	・SVO＋分詞 ・知覚動詞＋名詞＋分詞 ・分詞構文	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 学校, 家庭, 活動, 地域	(イ) 同情・共感を表す	pp.87-90	2
Logical Writing ③ 説明文を書いてみよう！		ア(ア), (イ)	ア, イ			(イ)		(ウ) 説明する, 描写する	pp.92-93	1
プレゼンをしてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ		(イ)			(ウ) 説明する, 描写する	pp.94-95	1
KEEP TALKING Scene ④ 病院に行く							(ウ) 病院	(ウ) 説明する (オ) 質問する	p.96	0.5
LESSON 16 Inventions and Breakthroughs	・関係代名詞（主格・目的格・前置詞の目的語のはたらき）	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア) (イ)	(ア)	(ア) 家庭, 学校 (イ) 情報通信ネットワーク	(オ) 質問する (感想をたずねる)	pp.99-102	2
LESSON 17 Community Service	・関係代名詞（非限定用法・what）	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 学校, 地域, 職場	(オ) 質問する (さらに詳しい情報をたずねる)	pp.103-106	2
LESSON 18 Events and Customs	・関係副詞（where / when / why / how） ・複合関係詞	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア)	(ア) 地域 (ウ) 手紙	(イ) 感想を述べる	pp.107-110	2
LESSON 19 Living Environment	・比較（原級・比較級・比較の対象）	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア), (イ)	(ア)	(ア)	(ア) 地域, 都市, 住居	(ウ) 存在を伝える	pp.111-114	2
LESSON 20 Social Problems	・比較（最上級・最上級相当の表現・比較の表現）	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア), (イ)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 地域 (イ) 記事, 統計	(エ) 提案する	pp.115-118	2
Logical Writing ④ 問題解決文を書いてみよう！		ア(ア), (イ)	ア, イ			(イ)		(エ) 提案する	pp.122-123	1
ディスカッションをしてみよう！		ア(ア), (イ)	ア, イ	(イ)				(エ) 賛成する・反対する, 主張する (オ) 質問する	pp.124-125	1
KEEP TALKING Scene ⑤ 道をたずねる							(ウ) 道案内	(オ) 質問する	p.126	0.5
LESSON 21 Making a Wish	・仮定法過去 ・仮定法過去完了 ・as if/It's time＋仮定法	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 学校, 家庭, 活動, 地域	(エ) 相手の発言に反応してから, 疑問点を述べる	pp.129-132	2
LESSON 22 Cross-cultural Communication	・接続詞（that/whether/when / because / if / although / though）	ア(ア), (イ)	ア, イ	(ア), (イ)	(ア)	(ア), (イ)	(ア) 学校, 地域	(オ) 質問する (自分の考えが伝わったか確認する)	pp.133-136	2

LESSON 23 Languages and Communication	・ that節 (that節の動詞 / It is said that / It is certain that)	ア (ア), (イ)	ア, イ	(ア), (イ)	(ア)	(イ)	(ア) 学校, 地域	(エ) 意見を言 う・相手の意 見に反応する	pp.137-140	2
Logical Writing ⑤ 説得文を書いてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ			(イ)		(エ) 主張する (オ) 説得する	pp.142-143	1
ディベートをしてみよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ	(イ)				(エ) 主張する (オ) 説得する	pp.144-147	2
Logical Writing PLUS 論理的な文章の書き 方を確認しよう！		ア (ア), (イ)	ア, イ			(イ)		(エ) 主張する	pp.148-149	1
計										59